

日時：平成27年(2015年)8月13日(木) 14:00～16:45

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：1名

傍聴希望者：1名

委員長	<p>開会</p> <p>では、第5回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認</p> <p>傍聴希望者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者は1名である。</p> <p><傍聴希望者入室></p>
委員長	<p>議題1「行政評価委員会のまとめ等について」</p> <p>では、議題1「行政評価委員会のまとめ等について」に審議を始める。前回の委員会でご意見をいただいた第3回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認する。</p> <p>< 第3回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認 ></p>
委員長	<p>では、次に第4回行政評価委員会の議事録について、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p>< 第4回行政評価委員会の議事録について修正等意見 ></p>
委員長	<p>では、次に第4回行政評価委員会のまとめについて、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p>< 第4回行政評価委員会のまとめについて修正等意見 ></p>
委員長	<p>議題2 平成26年度の施策評価について</p> <p>では、議題2「平成26年度の施策評価について」に審議を始める。</p> <p>本日の審議対象施策は、「環境保全」「都市美化・環境衛生」「循環型社会」の3分野である。事務局より施策展開の方針ごとに、要点のみを簡潔に説明いただき、その後、質疑という形で進めたいと思う。</p> <p><各施策審議></p>

<p>【基本目標】環境 【施策】環境保全 【施策展開の方針】『1 地球温暖化防止に向けて、環境に対する意識とライフスタイルの変革などにより、温室効果ガスの排出量の削減を図ります』</p>	
委員長	温室効果ガス（CO ₂ 換算）の削減率の指標が、平成 23 年度と平成 26 年度のみ記載されており、間隔があるのはどうしてか。また削減率は、いつに比べての数値か。
環境室長	国の統計から宝塚の数値を出しており、数値の算出に 2 年程度かかる。平成 26 年度の数値は、実際は平成 25 年度の数値であり、直近で分かる数値として、平成 26 年度に記載している。削減率は、1990 年の 67 万 t を基準にしている。震災以降、原発停止でガソリンの需要が増え、平成 25 年度で 78 万 3 千トンの温室効果ガスがエネルギー換算で出ていると算出している。
委員長	太陽光発電の導入は進んでいるが、温室効果ガスは増えている。施策展開の方針が温室効果ガスの排出量の削減となっているがどのように考えているか。
環境室長	温室効果ガス排出量は、活動量×排出係数により計算されており、排出係数はエネルギーの使用状況等により年々変化する。基準年と同じ排出係数で考えると、平成 25 年度は 59 万 9 千 t で減少している。また、国全体の数値を元に宝塚市の数値を導き出しているの、1 市の取り組みだけで数値に大きな変化が出すというのは難しいところがある。
委員長	事業としては再生可能エネルギーに力を入れているので施策展開の方針を再生可能エネルギーの充実等に変更した方が良いのではないか。
環境室長	平成 23 年度に地球温暖化対策実行計画を策定し、温室効果ガスを 2050 年に 1990 年の半分にするという大きな目標を立てている。
委員長	環境の変化もあり、温室効果ガスの削減は日本全体でも政策の方向が変わってきているので方針を考え直した方が良いのではないか。市の努力だけでは難しいところがあるのであれば、施策の重点を変えて取り組む方が評価としても分かりやすいのではないかと感じる。
委員	エネルギーの使用は、産業用、運輸等が主であり、宝塚は産業用、運輸が少なく、省エネ電化製品の普及もあり、温室効果ガスとしては減っているのではないかと感じる。市の施策として無理があるのではないか。また、太陽光発電については、パネル等に投資コストが掛かり、採算がとりにくい。省エネ対策に切り替え、LED の普及や電気の自動消灯等を徹底的にやる方が、効果が高いのではないか。指標については、関西電力の顧客の電気使用量やガソリンスタンドの売上、エンジン車やハイブリット車などの台数変化等の把握により成果が見えるのではないか。
委員	再生可能エネルギー基金活用事業はどのような取組か。
環境室長	寄付を募り、再生可能エネルギーの創出に取り組む事業者へ助成する事業。宝塚すみれ発電所が完成し、太陽光発電の発電事業を開始している。平成 26 年度は事業費

	<p>約1900万円に対し、10%約190万円を助成。売電して事業に取り組んでいる。現在はこの1件。宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例、宝塚市再生可能エネルギー基金条例に基づいて取り組んでいる。</p>
<p>委員</p>	<p>特定事業者に受益が偏っていないか。</p>
<p>環境室長</p>	<p>公募型プロポーザルにより募集をかけて、審査しており、偏りは無い。</p>
<p>委員長</p>	<p>再生可能エネルギー導入推進事業について、平成26年度は事業費として540万円支出している。概要には講演会、懇談会、審議会等の記載があるが、これらだけで540万円は費用がかかり過ぎていると思うがいかがか。</p>
<p>環境室長</p>	<p>再生可能エネルギーの市民相談窓口の設置を委託しており、それらを含んだ事業費となっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>市民相談窓口の設置が必要なのか。委託せず、行政自身で相談に乗れば費用の削減ができるのではないか。</p>
<p>環境室長</p>	<p>その点は検証しており、今後、相談件数が少なくなれば、市の担当課で対応していくことも考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>これまで3年間取り組み、一定定着してきたのであれば、費用対効果を検証し、直営に切り替えることも検討していく必要があるということでもとめる。</p>
<p>委員</p>	<p>太陽光発電について、行政が補助金を出して事業をする必要があるのか。耐用年数や費用を考えると採算が合わない。採算を考えるとすれば、大規模なものにしなければいけないが、市の財政としては厳しいと思うので、事業の再検討を行った方がよいのではないか。</p>

【基本目標】環境	
【施策】環境保全	
【施策展開の方針】『2 豊かな自然環境の保全など、生物多様性を意識したまちづくりを推進します』	
委員長	公害対策事業は生物多様性とあまり関係ないように思うが、この施策展開の方針で考える事業なのか。また、有害鳥獣の防除もここで取り上げる話なのか。
環境室長	公害対策は自然環境の保全に関わるので、この施策展開の方針の事務事業として考えており、大気、水質の検査等に取り組んでいる。イノシシ、シカ等の鳥獣対策については、農産物被害対策ということで、主に農政の担当部署が取り組んでいるが、ここで取り上げているのは、自然環境の保全の観点からの特定外来生物やその他の有害鳥獣対策である。
委員長	豊かな自然環境の保全など、生物多様性を意識したまちづくりを推進しますというのは宝塚の特色ではあると思うが、施策展開の方針が細かすぎるのではないかと感じるので、今後検討をお願いします。
委員	生物多様性の啓発施設として、市立宝塚自然の家の活用の検討が必要と記載があるが、施設整備が必要なのか。また、拠点の整備が求められているとあるが、活動団体がおり、活用方策があつての話なのか。
環境室長	自然の家の施設すべてということではない。自然の家の一部を拠点として整備できればと考えている。活動団体としては、松尾湿原等で保全活動に取り組んでいる団体がある。
委員	団体の活動は活発化しているのか。
環境室長	以前は湿原と言えるような状態ではなかったが、活動団体により整備していただいた。丸山湿原は市の天然記念物に指定されるまでに至っている。松尾湿原も活動団体が入り、すばらしい湿原になっている。活発に活動されていると考えている。
委員	生物多様性については市単独でなく、阪神間等で市をまたいだ活動も出てくると思うので、ここを拠点にする必要はないのではないかと思いますがいかがか。
環境室長	市内に環境の活動団体は30団体程あり、市や各団体等が連携しながら取組を進めている。阪神北県民局とも連携して取り組んでおり、市をまたいだ活動もある。活動団体より、拠点の整備について話があり、市内に拠点が必要ではないかと考え、市で検討を行っているところである。
委員	この施策展開の方針では、主に西谷の北部地域が意識された取組がなされているが、南部の市街地も意識した取組が必要ではないか。
環境室長	逆瀬川の自然保護活動や武庫川での外来種の駆除の活動はあるが、事務事業として具体的に出てきていないのは認識しており、今後検討する必要があると考えている。

委員長	特定外来生物の駆除については、どの事務事業で取組を行っているのか。
環境室長	事務事業としては林業振興事業で取組を行っている。
委員長	ブラックバスやブルーギルの駆除、アライグマ等の捕獲は行っているか。イノシシやシカ、サルは特定外来生物ではないので、特定外来生物の駆除の取組がしっかりできているか確認したい。
環境室長	ブラックバス、ブルーギルの駆除についての事務事業はないが、自然保護活動団体が外来種の駆除に行く際に市も同行し支援を行っている。アライグマやヌートリアについては、26年度アライグマ252匹、ヌートリア10匹の駆除を行った。また、特定外来生物に関するガイドブックを作成しており、持ち込まない、持ち出さないことについて、啓発を行っている。
委員長	希少種や固有種の保護についての取組はいかがか。
環境室長	ガイドブックで、希少種を紹介しており、自然保護活動団体が調査し、保護に取り組んでいる。特に希少な生物については公にすると捕獲される危険もあることから、公にはせず、自然保護活動団体で把握し、保護に取り組んでいる。

<p>【基本目標】環境 【施策】環境保全 【施策展開の方針】『3 環境問題に関心を持ち、自ら行動する市民の増加を図るなど、環境活動の広がりを促進します』</p>	
委員	<p>環境活動団体は、自分たちで県等から助成金を受け、自立して取り組みを進めている。それらの団体と市民を繋ぐことが市の重要な役割である。環境推進事業について、様々な取組があるが、大きく一つの事業にまとめられているので、事務事業を切り分け整理する必要があるのではないかと感じる。社協で月に1回、映画鑑賞会を市民が開催しているが、そうした情報をきちんと掴んでいけば、環境推進事業として映画会を開催せずともうまく連携ができるのではないかと感じる。現場に目を向けると焦点が絞られて、活動者も増えていくのではないかと感じる。</p>
委員	<p>スケッチしている人から宝塚は題材が多く、風景が良いということを知る。環境や風景を市の財産として認識し、PRしていくことが重要である。県とも連携し、西谷の森をもっと活用することも考えてはどうか。宝塚自然の家は老朽化しており、現在、宿泊もできないが、施設に投資し、整備することを検討しても良いのではないかと感じる。</p>
委員	<p>宝塚の里山整備に他市から活動をしにくる人がいる。丸山湿原は阪神北県民局が北摂里山博物館構想で予算をとっている。これらのことをうまく繋ぎ合わせ、全体的に盛り上げることが宝塚のブランドにも繋がっていくのではないかと感じる。</p>
委員	<p>環境リーダー入門講座について、受講者のその後の環境への関わりについてはどのような状況か。</p>
環境室長	<p>これまで300名弱の方が受講し、80名以上の方が環境活動団体に入り、活動をされている。</p>

【基本目標】環境	
【施策】都市美化・環境衛生	
【施策展開の方針】『1 市民と連携・協力した取り組みを展開し、都市美化を推進します』	
委員	自治会を中心に宝塚を美しくする市民運動を実施しているが、CSRの一環としてとして事業者にも声をかけても良いのではないかと。
環境室長	事業者へも声掛けは行っているが、あまり参加いただけていない状況。平成26年度は6事業所の参加であった。課題だと認識している。
委員	ぼい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例について、監視員を入れている効果はどうか。
環境室長	委託して行っており、監視委員2名が、朝昼晩、1時間程度回っている。喫煙については1日1~2名吸われているのを目撃する状況。現在は、啓発を重点に行っている。
委員	監視カメラ設置による不法投棄防止の効果はどうか。監視カメラは一時的には効果があるが、継続的な効果が薄く、費用対効果が悪いと聞くこともある。
環境室長	不法投棄の件数自体は減っているので一定の効果はあると考えている。市内に19台設置している。費用対効果については、今後検証が必要であると考えている。
委員長	録画したものを何かに使うことはあるのか。使っていないのであれば、ダミーのものでも良い気がする。
環境室長	SDが入っていて、チェックしているが、どれほど映っているのか、またどれほど活用しているのかは今の資料がないので、改めて報告させていただく。
委員長	物理的な対策として、柵を付けることも効果的であると思うが、すべて柵で覆うことになるかもしれないので、維持管理費用も含めカメラと柵どちらが全体的に費用が掛からず効果的か検討してみても良いのではないかと。

<p>【基本目標】環境 【施策】都市美化・環境衛生 【施策展開の方針】『2 快適な生活環境を創出するため、環境衛生対策の充実を図ります』</p>	
委員長	指標がないが、ペットのマナー対策による成果等で何か数値として表されるものはないか。
環境室長	事業としては啓発が主であり、犬の糞尿に関する苦情が減っている実感はあるが、数値としてはない。
委員長	ホットな分野でもあるので、何か指標が必要ではないか。糞を飼い主に送り付ける等、斬新な取組を行っている国もある。条例等で規制をすることも考え得るので、効果を調べて最適な手段をとっていただきたい。
委員長	ペットとの共生都市推進事業について、猫の不妊、去勢手術はどれほど費用がかかるのか。
環境室長	地域猫に対する不妊、去勢手術への一部助成を行っている。メス12,000円、オス8,000円助成している。獣医師により、費用はまちまちであるが、おおよその手術費用は、メス20,000円、オス12,000円程度であり、差額は、地域猫活動の主体者が自己負担している。
委員長	事業名が、ペットとの共生都市推進事業であり、幅広いものに見えるが、事業の中には、別途計画を作り、様々なペットとの共生をめざすというような取組までは含まれていないのか。
環境室長	含まれていない。
委員	地域猫の不妊、去勢手術への助成による成果が見えない。また、マナーの向上について、都市部では規制をかけたりにしているところもある。取り組みの充実が必要ではないか。
環境室長	野良猫を減らすということが成果になるが、実態として野良猫の数は把握は困難であり、成果としてお示ししにくいところがある。
委員長	糞尿についての苦情はあるか。
環境室長	野良猫の糞尿の苦情もある。地域でエサを与え、糞尿の処理も地域にお願いすることもこの事業に含まれている。野良猫による被害も減らしていきたいと考えている。
委員長	様々な種類のペットが増えてきているので、野良猫以外の対策についても今後検討していく必要がある。
委員	県に犬の糞の放置に対する罰金を規定した条例がある。宝塚市では条例化を考えているのか。また、放置はしないが、ミニ公園なんかの低木の間糞尿が入ったビニール袋を捨てたりするケースもある。対策できないか。

環境室長	現在は条例化までは考えていない。啓発を中心に取組を進めていく考えである。
委員長	飼い主のマナーが悪化しているのであれば、啓発等のマナー向上対策から一步踏み込み、規制等の対策が必要となる。今後、ペットは増えていくと思うので、状況により対応を検討していくことが重要である。
委員	公衆便所管理事業について、一般観光客が使えるトイレが少ないように感じる。市内に6カ所設置されているが、適正性についてどう考えているか。
クリーンセンター所長	清荒神2カ所、中山寺、西谷武田尾、御所の前公園、宝塚駅前の6カ所に設置しており、観光地のポイントポイントには設置している。
委員	観光客の他、市民もトイレを利用することが多いが、対応の必要はないか。
クリーンセンター所長	消防署や公共施設、またガソリンスタンドなんかにも看板を掲げ、市民トイレとしてご利用いただいている。昨今では、コンビニがトイレとしての役目も担っている部分はあると思う。散歩コースにトイレを設置してほしいと言われることがあるが全部に答えるとトイレだらけになってしまう。今のところ、設置数としては現状維持を考えている。

【基本目標】環境	
【施策】都市美化・環境衛生	
【施策展開の方針】『3 墓地の長期的かつ安定的な供給などに努めます』	
委員	すみれ墓苑の貸出区画数はどのような状況か。
環境室長	整備済み区画が2,356区画となっており、平成27年4月1日現在で、862区画空いている状況である。
委員	貸出による管理料で墓苑の維持管理費用はまかなえているか。
環境室長	まかなえていない。
委員	地域で墓地を持っている所では無料の所もある。すみれ墓苑の募集パンフレットを作成し配布されているが、あまり効果がないように感じる。すみれ墓苑整備にかかった総額費用の償却の見通しはいかがか。
環境室長	収支計画を作っており、計画通りに販売ができれば平成54年には償却できる。
委員	整備区画数としては当初約6,500区画の計画であったが、現在2,356区画で半分もいっていない。市街地から30分程かかり利便性が悪いことも原因の一つ。使い方を見直した方が良いのではないか。置いておくだけでも維持管理費用がかかってくることから、早い段階で検討をした方が良い。時代のニーズが変わってきているので、変化に合わせて、転換すべきであり、他の用途として使うことも含め検討が必要である。
委員長	少子高齢化の中で、ニーズも変わりつつある。若い世代は数百万円出してまで墓地を買わない。便利な場所で維持コストやスペースを要しない形であれば、ニーズも出てくると思うので、先々に向け、墓地のあり方について検討いただきたい。
委員	火葬場の受け入れ対応については、以前は、明確なルールが確立しておらず、事業者から事実確認の問合せを受けたことを機に、受け入れのルールを明確にし、市内の葬祭会社に周知したと聞いている。明確なルールに沿って公平な運営に努めて頂くようお願いする。

<p>【基本目標】環境 【施策】循環型社会 【施策展開の方針】『1 環境への負荷が少ない循環型社会の構築に向けて、ごみの減量・資源化を推進します』</p>	
委員長	ごみの排出量の増減や取組状況について説明いただきたい。
クリーンセンター所長	ごみは大きく家庭系ごみと事業系ごみの 2 つに分けられる。家庭系ごみのうち、紙・布については、平成 24 年 10 月に条例改正を行い、持ち去りを禁止にし、また平成 25 年には市内の 1/3 の地域で、紙の回収業者が直接収集する方法を導入したことに伴い、一気に回収量が増え、近年は増加傾向になっている。それ以外は減少傾向にある。市民一人 1 日あたりのごみ平均排出量（家庭系燃やすごみ）は、横ばいである。事業系ごみについては、景気が回復傾向にあることもあり、増加傾向にある。事業者アンケートをとったり、事業者自らがごみを処理する責任があるということを通じて事業者等にリーフレットを配布する等して啓発に取り組んでいる。また、ごみ処理許可業者に対しては、しっかりと分別して搬入するよう徹底して周知を行っている。
委員	緑のリサイクル事業について、植木、剪定に関わる一部の人に受益が偏ったりしていないか。
クリーンセンター所長	緑のリサイクル事業は、平成 11 年から取り組んでおり、宝塚の特色を生かした効果的な事業と考えている。植木ごみは焼却が一般的であり、過去にはごみピットが緑でいっぱいになるくらいたくさん植木ごみが出ていた。植木ごみをチップ化することで、堆肥として利用できるだけでなく、ごみ焼却炉の圧迫を軽減することができる。チップ化したものうち半分は市民等に無償提供しており、大好評である。事業収支としては委託料を収入手数料が上回っているため採算はとれている。
委員	良い取組であると思うので、もっと P R しても良いのではないかと。今後も充実を図っていただきたい。
委員長	緑のリサイクル事業の事業費に 5,903 万円とあるが、チップの売却により収入を得ているのか。
クリーンセンター所長	廃棄物処理手数料が収入となる。
委員長	熟成チップが販売できたらさらなる収入となるのではないかと。
クリーンセンター所長	現在、かつての不燃物の最終処分場の跡地を利用しており、面積的に長期間置いておくことができず、製品にするまで十分熟成ができない状況である。
委員	新ごみ処理施設整備調査研究事業について、新ごみ処理施設の場所から検討するとすると相当な時間がかかるが、完成の予定年度はいつ頃か。また、研究事業は今後数年続くのか。

クリーンセンター所長	平成36年度からの稼働を目標としている。研究事業は続き、事業費としては年々増加していく。環境影響評価の調査委託等、様々な調査研究が必要となる。
------------	---

<p>【基本目標】環境 【施策】循環型社会 【施策展開の方針】『2 安全で効率的なごみ処理をめざします』</p>	
委員	新ごみ処理施設整備基本構想検討委員会による基本構想のまとめは終わったか。
クリーンセンター所長	委員会として基本構想案のまとめは終えたが、現在、9月にパブリックコメントを行うべく準備をしており、パブリックコメント等を経て、基本構想が出来上がる。ごみ処理施設の広域化について、近隣市や県に働きかけを行ったが、現状としては、難しい状況にあり、宝塚市単独で建設するべく構想を考えている。
委員	以前、安倉と伊丹市の接点辺りで、伊丹市と組んで新ごみ処理施設を建設する話があったと思うが、何か経緯はあったのか。また、これから建設する施設の場所は決まっているのか。
クリーンセンター所長	場所は決まっていない。伊丹市との話は把握していないが、現在、伊丹市は豊中市と組んでやること決まっており、施設の整備を行っているところである。
委員	収集業務委託の適正な入札を行うため、検証を行うとあるが、これまでどのように入札していたのか。
クリーンセンター所長	これまで随意契約をしていたが、見直しを図るため、平成25年度に市内1/3の地域の収集業務について競争入札を行った。雇用の問題もあり、急激に変化させることは難しいが、取り入れた競争入札を検証しながら今後さらなる検討を行っていく。
委員	働く人の労働条件にも配慮しながら入札方法を検討していく必要がある。
クリーンセンター所長	廃棄物処理法では、経済性や競争による業者選定よりもごみの適正処理による業者選定を優先することが求められており、また最高裁の判決でも過剰な許可による既存業者の圧迫は違法であるとされた判例もある。入札においては、最低制限価格を設定している。
委員	塵芥収集事業の直営、委託のバランスはどうなっているか。
クリーンセンター所長	直営19、委託81の割合である。直営の収集業務は一般ごみ定数40人、粗大ごみ定数6人、合計46人の定数で行っている。年齢は40代以下がほとんどである。災害時の対応や災害ゴミの収集もあり、一定の割合は、直営で行うことが必要であり、現状くらいが適正と考えている。
委員	100%委託しても良いのではないか。丸投げするのではなく、モニタリングをしっかり行い、市が当事者意識を持って関われば、適正な処理も可能となり、費用の削減も図れるのではないか。宝塚はごみ収集の回数が多いと感じるが、これほどの収集が必要か。ごみ収集も公共サービスであり、ガス、水道と同じように受益者負担を考えていく必要があるのではないか。

クリーンセンター所長	回数の多い少ないについては、様々な意見があると思う。お年寄りでごみ出しが大変な方は、収集回数を増やすことで1回あたりのごみ出し量が少なくて済む。また、山手側は坂が多く、ごみステーションが増えている状況もある。費用だけを考えると回数を減らすことも考えられるが、衛生的に確実に集めることが第一優先である。分別も増やせば増やすほど資源化につながり、ゴミの処理費用も安くなるが、ごみ処理経費にかかる収集費用の割合が高いことから、これらのことを含め総合的に検討を行っていく必要があると考えている。
------------	---